

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（6月）

かんしょ(さつまいも):
サツマイモ基腐病

被害株の葉の変色

特徴

- ◆ かび（糸状菌）の一種が原因。
- ◆ 葉が黄変・萎凋したり、茎の基部が暗褐色～黒色に変色する。
- ◆ 進行すると茎葉の枯死、いもの腐敗が発生する。

防除のポイント

- ◆ 消毒済みの苗を購入する、もしくは登録のある農薬（バンレート水和剤など）で消毒後に植え付ける。
- ◆ 排水不良により発生しやすいので、ほ場の排水対策を徹底する。
- ◆ ほ場を定期的に見回り、発病株の早期発見に努める。
- ◆ 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分する。



▲詳しくはこちら

みかん:ミカンハダニ



被害葉

特徴

- ◆ 梅雨明け後に発生が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 6月中～下旬に、ハーベストオイル、トモノールSなどのマシン油剤を散布する。
- ◆ 発生を認めたら、ダニコングフロアブル、スターマイトプラスフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆ 薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

野菜類・花き類:
ハスモンヨトウ

幼虫

特徴

- ◆ なす科野菜、さといもなど多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、アディオン乳剤（さといも、さといも（葉柄）、オクラ、豆類（未成熟）など）、ディアナSC（かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど）、コテツフロアブル（さといも（葉柄）、さといも、オクラ、花き類など）、プレバゾンフロアブル5（さといも、なす、ピーマンなど）などを散布する。

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。
http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_l.pdf

6月～8月は農薬危害防止運動月間です。農薬は適正に使用し、事故・被害を防止しましょう！

次回の情報は6月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫の発生予報(6月)

水稲

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			いもち病 縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)		
	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)(発生に注意)				

果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう		灰色かび病			
			ベと病		
			チャノキイロアザミウマ クワゴマダラヒトリ		
もも			せん孔細菌病 シンクイムシ類		
	バラ科果樹 クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん		黒点病		ミカンハダニ	
			カイガラムシ類		
いちじく			アザミウマ類		
果樹類全般			果樹カメムシ類		

野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす		すすかび病 灰色かび病			
			うどんこ病 アザミウマ類		
		葉かび病・ すすかび病 灰色かび病			
トマト		ハモグリバエ類			
			コナジラミ類 (トマト黄化葉巻病 (TYLCV))		

野菜類・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類	サツマイモ基腐病(発生に注意)				
			シロイチモジヨトウ		
				ハスモンヨトウ	
			コナガ アブラムシ類		

水稲

いもち病



葉いもち

特徴

- ◆ 低温多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。

防除のポイント

- ◆ 発生が予想される場合、ビームプリンス粒剤やサンスパイク箱粒剤、グイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤などの箱施用剤を田植え時に処理する。
- ◆ 常発ほ場で箱施用剤を使用できない場合は、発生前にオリゼメート粒剤、コラトップ粒剤5、ゴウケツ粒剤、サンブラス粒剤などを散布する。
- ◆ 発生を認めたらブラシフロアブルなどを散布する。

縞葉枯病(ヒメトビウンカ)



ヒメトビウンカ【成虫】

縞葉枯病発病株

特徴

- ◆ 縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。
- ◆ リ病株では、新葉が垂れ下がって枯死する(ゆうれい症状)。

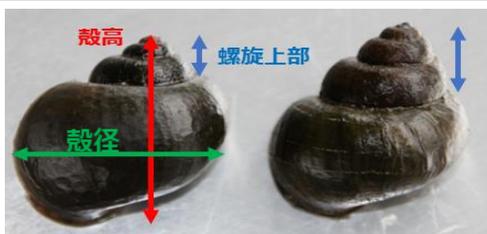
防除のポイント

- ◆ ヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。
- ◆ 箱施用剤(フェルテラゼクサロン箱粒剤、リディア箱粒剤、ブーンアレス箱粒剤)等により、ヒメトビウンカの防除を徹底する。

ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)



ジャンボタニシ
(スクミリンゴガイ)



ジャンボタニシ

マルタニシ



ヒメタニシ

注)写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために」より引用。

特徴

- ◆ 成貝の殻高は2～7cm程度。
- ◆ 他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである(上部写真参考)。
- ◆ 主に田植え直後(約20日後まで)の苗が食害され、欠株になる。

防除のポイント

- ◆ ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とす。
- ◆ 水深4cm以下では自由に移動できないので、田植え後の浅水管理が有効。
- ◆ ほ場が凸凹の場合、深いところの稲が食害されるため、代かきをきちんと行い、ほ場を平らにする。
- ◆ 用水路からの侵入を防ぐため、取水口や排水口に金網(編目5mm以下)を設置する。
- ◆ 田植え直後にスクミノ、スクミンバイト3、ジャンボたにしくんなどを散布する。

注)スクミノ、ジャンボたにしくんを使用後は7日間湛水状態にし、かけ流しや落水はしない。



卵塊

カラー技術資料「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)から稲を守りましょう!」についてもご参照ください。
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

果樹

ぶどう(施設栽培)

灰色かび病



灰色かび病の症状

特徴

- ◆ 多湿条件で発生が多くなる。
- ◆ 孢子(分生孢子)が雨や風によって飛散し、感染する。

防除のポイント

- ◆ 換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆ 第1回ジベレリン処理から結実始めの間にビニルで土壌マルチングをする。
- ◆ 開花直前または落花直後にゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、オンリーワンフロアブルなどを散布する。
- ◆ 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

べと病



べと病の葉裏の症状

特徴

- ◆ 梅雨時期など、雨が続くとまん延しやすい。

防除のポイント

- ◆ 露地の多発ほ場では梅雨の晴れ間の予防が重要である。
- ◆ 発生を認めたらオロンディスウルトラSC、バトファイター顆粒水和剤、ライメイフロアブルなどを散布する。
- ◆ 農薬を散布する際に、葉害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。

※注意！

一部の農薬は、果粉溶脱を生じるおそれがあるので、幼果期から果粒肥大期の散布を避けて袋かけ以降に使用し、無袋栽培(傘掛けを含む)には使用しない、等の注意事項が掲載されていますので、よく確認してください。

ぶどう(施設栽培)

チャノキイロアザミウマ



被害果*

特徴

- ◆ 巨峰、シャインマスカット等の大粒系品種で被害が大きくなりやすい。

防除のポイント

- ◆ ディアナWDG、エクシレルSE、モスピラン顆粒水溶剤などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

クワゴマダラヒトリ



クワゴマダラヒトリの幼虫※

特徴

- ◆ 成虫は年1回、8～9月にアカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵する。
- ◆ 主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で越冬する。越冬後、3月以降に幼虫が移動しブドウの新梢や葉を食害する。

防除のポイント

- ◆ ほ場内及び周辺の除草を徹底する。
- ◆ 初期に新梢の生長点が加害されると、被害が大きいため初期防除に努める。
- ◆ 発生を確認した場合は、オリオン水和剤40、フェニックスフロアブル、エクシレルSEなどを散布する。

※注意！

一部の農薬は、果粉溶脱を生じるおそれがあるので、幼果期から果粒肥大期の散布を避けて袋かけ以降に使用し、無袋栽培(傘掛けを含む)には使用しない、等の注意事項が掲載されていますので、よく確認してください。

もも

せん孔細菌病



葉の病斑



果実の被害

特徴

- ◆ 葉に黄色から赤褐色の病斑が生じ、やがてせん孔する。
- ◆ 果実でも針で突いたような褐色斑点を生じ、果実生育により大小様々の病斑となる。
- ◆ 病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆ 風当たりの強い園地では、防風ネットを設置するなどの対策を行う。
- ◆ 6月以降も、せん孔細菌病が多発している園では、収穫前日数に注意して**バリダシン液剤5**、**スターナ水和剤**、**チオノックフロアブル**等を散布する。

シンクイムシ類



被害果

特徴

- ◆ ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

防除のポイント

- ◆ 被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 産卵期から幼虫加害期(5月上旬～7月下旬)に**ノーモルト乳剤**、**アデオン乳剤**、**サムコルフロアブル10**、**アクタラ顆粒水溶剤**、**ディアナWDG**などを散布する。

バラ科果樹(もも、うめ、すもも等)

クビアカツヤカミキリ



フラス



幼虫

成虫

特徴

- ◆ 成虫は体長2～4cm。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆ 幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出す。
- ◆ フラスが出ている穴の周辺に幼虫がいる可能性が高い。
- ◆ **若齢幼虫はうどんよりも細い(中華麺状)フラスを出すことがあり、この時期の防除が効果的。**

防除のポイント

- ◆ フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してから**ロビンフッド**、**ベニカカミキリムシエアゾール**を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。
- ◆ ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで捕殺する。

「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策(R5.3改訂版)」についてもご参照ください。

http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/kubiaka2303.pdf



温州みかん

黒点病



被害果

特徴

- ◆ 梅雨時期など雨が続くと発生が増加する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期にジマンダイセン(ペンコゼブ)水和剤、エムダイファー水和剤などを散布する。降雨が多い場合には、散布回数を増やす。
- ◆ ジマンダイセン(ペンコゼブ)水和剤、エムダイファー水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。

※注意！

かんきつ(みかんを除く)では、上記3剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時に注意する。

カイガラムシ類



ナシマルカイガラムシの被害

特徴

- ◆ ナシマルカイガラムシ(サンホーゼカイガラムシ)などが加害する。

防除のポイント

- ◆ 幼虫発生期にエルサン乳剤、モスピラン顆粒水溶剤、トランスフォームフロアブルなどを散布する。

幼虫発生期

ナシマルカイガラムシ:5月下旬～6月中旬、8月上旬～中旬

ヤノネカイガラムシ:5月下旬～6月下旬、8月中旬～9月上旬

いちじく

アザミウマ類



被害果

特徴

- ◆ 果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。

防除のポイント

- ◆ 成虫発生期(5月下～6月中旬)にスピノエース顆粒水和剤、ディアナWDG、コテツフロアブル(ヒラズハナアザミウマ)などを散布する。
- ◆ 果実の直径が2.5cmになったときの散布が有効である。
- ◆ ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。
- ◆ 光反射シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

果樹類全般

※作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ※

特徴

- ◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆ 園全体を目合い4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆ 発生を認めたら、アディオン乳剤(かんきつ、もも、かきなど)、スタークル(アルバリ)ン顆粒水溶剤(かんきつ、もも、かき、ぶどう、なしなど)などを散布する。

野菜

なす(施設栽培)

すすかび病



葉の病斑

特徴

- ◆ 高温多湿になる施設栽培で発生が多い。

防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生を認めたら、スコア顆粒水和剤、プロポーズ顆粒水和剤などを散布する。

灰色かび病



灰色かび病症状*

特徴

- ◆ 咲き終わった花弁や幼果に感染しやすい。
- ◆ 20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、バルコート水和剤、セイビアーフロアブル20等を、発生を認めたら、ゲッター水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。
- ◆ 開花後の花弁を取り除く。
- ◆ 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

● 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)
● 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

うどんこ病



葉の病斑

特徴

- ◆ 窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤、スコア顆粒水和剤、プロパティフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ ミナミキイロアザミウマ(葉・果実)やミカンキイロアザミウマ(葉・主に水なすの果実)による被害が大きい。
- ◆ 苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、アフーム乳剤、ファインセーブフロアブル、モベントフロアブル、ダブルシューターSEなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の増殖場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

トマト・ミニトマト(施設栽培)

葉かび病、すすかび病

すすかび病被害葉※
表(左) 裏(右)※

特徴

- ◆ 多湿条件で発生しやすい。
- ◆ 近年すすかび病が増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。

灰色かび病



特徴

- ◆ 施設栽培で発生が多い。
- ◆ 20℃程度の多湿時に発生が多く、花がらや果実のがくから発生することで、果実にも被害が生じる。

防除のポイント

- ◆ 開花後の花弁をとり、病原菌の侵入を防ぐ。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ダコニール1000、ベルコートフロアブル等を散布する。発生を認めたら、ファンタジスタ顆粒水和剤、ゲッター水和剤等を散布する。
- ◆ 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

ハモグリバエ類



特徴

- ◆ マメハモグリバエ、トマトハモグリバエなどが発生する。

防除のポイント

- ◆ 摘葉した被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ ベネビアOD、アフーム乳剤などを散布する。

コナジラミ類 (トマト黄化葉巻病)



特徴

- ◆ すず病を引き起こす他、タバココナジラミは吸汁による果実の着色不良、TYLCV(トマト黄化葉巻ウイルス)の伝搬等、様々な被害を引き起こす。トマト黄化葉巻病に感染すると、生育の停止・着果不良を起こす。

防除のポイント

- ◆ トマト黄化葉巻病は感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、媒介するタバココナジラミの防除を徹底する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除草を徹底する。
- ◆ グレーシア乳剤、ベネビアODなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

野菜類・花き類

※作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

シロイチモジヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ ねぎでの発生が多いが、しゅんぎく、まめ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、グレーシア乳剤(ねぎなど)、ベネビアOD(ねぎなど)、ロムダンフロアブル(ねぎ、花き類・観葉植物、きく)などを散布する。

コナガ



成虫 ※



幼虫 ※

特徴

- ◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆ 同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆ 発生を認めたら、アクセルフロアブル(非結球あぶらな科葉菜類など)、ディアナSC(非結球あぶらな科葉菜類など)などを散布する。

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤(なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎくなど)、アドマイヤー顆粒水和剤(なす、トマト、ミニトマトなど)、コルト顆粒水和剤(なす、トマト、ミニトマト、花き類など)、ウララDF(なす、トマト、ミニトマト、ピーマンなど)を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。